

施策名

201 地震・高潮・津波等災害対策の推進

施策の目的

地震・高潮・津波など災害への対応が、背後地域の住民の生命・財産を確実に守ることができるものとなっている という状態にします。

施策の数値目標と達成状況

災害により地域住民等が被災した件数	2009年度 実績値	0件	達成状況	A
	2010年度 目標値	0件		
	2010年度 実績値	0件		

達成状況の説明：目標が達成できた

【目標項目の説明】

- ・四日市港における災害（地震・高潮・津波）対策の不備などが原因で、四日市港の背後の地域住民等が被災した件数。

2010年度における取組と成果等

- 防災体制の充実を図るため、四日市港管理組合防災体制要綱等の改訂や防災研修、訓練を実施しました。また、「地震・津波・風水害等の緊急時における調査・災害応急工事に関する協定」に基づき訓練を行いました。
- 四日市港管理組合が管理する防潮扉について、「津波発生時等における防潮扉及び樋門の開閉作業に関する協定」（以下、「津波協定」といいます。）を、自治会・企業と締結をしていますが、新たに他の企業2者とも締結し、締結先は計35者となりました。さらに、地域住民の方々を対象に防潮扉操作説明会を2回開催し、津波協定の実効性を高めました。
- 海岸保全施設については、護岸の耐震機能を向上させるため、富田港地区で護岸の補強対策を推進しました。
- 全ての防潮扉等について点検を実施し、12箇所の補修を行いました。
- 東日本大震災の発生時には、直ちに災害対策本部を設置し、管理する防潮扉や水門を全て閉鎖するとともに、船舶を港外へ避難させるなど、地域住民や物流の安全対策に取り組んだ結果、四日市港において被害は生じませんでした。

これからの課題等

- 高潮・津波等の災害発生時には、迅速・確実に防潮扉を閉鎖するため、出勤する職員のスキルを向上させる必要があります。
- 「津波協定」を締結した自治会・企業などが津波発生時に迅速・確実に防潮扉を閉鎖できることが必要です。
- 災害復旧活動を支援するため、災害協定の実効性を維持していく必要があります。
- 高潮、津波によるコンテナなどの流出防止対策が必要です。
- 海岸保全施設については、老朽化が進んでおり、大規模地震に備え、海岸保全施設の耐震性能を向上させるよう、できるだけ早く護岸の補強対策を進めていく必要があります。
- 東日本大震災を受けた地震・津波高の想定の見直しなど、国等の動向を注視し、ハード・ソフト両面における必要な対策を講じる必要があります。

2011年度（以降）における取組

- 訓練の実施により出勤する職員のスキルを向上させ、迅速・確実な防潮扉の閉鎖に努めます。【戦略計画 事業 20201 へ】
- 防災体制が、災害時にその機能を十分に発揮できるものとなるよう、「津波協定」を締結した自治会・企業等の防災活動の実効性と防災意識の向上に努めます。【戦略計画 事業 20201 へ】
- 災害復旧活動を支援する災害協定の実効性を維持するために、締結している団体と連携した訓練を実施します。【戦略計画 事業 20202 へ】
- 災害発生時に、海岸保全施設が確実に機能するよう、老朽化した防潮扉等の維持補修を進めます。【戦略計画 事業 20201 へ】
- 港湾ユーザーなど関係者と連携し、高潮、津波によるコンテナなどの流出防止対策を検討していきます。【戦略計画 事業 20201 へ】
- 海岸保全施設については、護岸の補強対策を推進し、耐震性能を向上させます。また、施設の点検、補修により海岸保全の機能を維持します。【戦略計画 事業 20201 へ】
- 緊急時の物資輸送や災害復興活動を支えるため、市街地に近い四日市地区第3埠頭 15号岸壁の整備を進めます。【戦略計画 事業 20202 へ】
- 東日本大震災を受けた国等の動向を注視し、必要な対策を講じるとともに、津波・高潮等に対する避難対策について、共助の観点から、霞地区の関係企業、行政機関との間で連携を進めます。【戦略計画 事業 10203、事業 20201 へ】